

提出 21年 2月24日

会合議事録

研究会名：第1回原子分解能X線励起ホログラフィー研究会

日時：2008年11月1日（土）13:30～15:00

場所：日本科学未来館・7F 交流サロン

（第12回SPRING-8 シンポジウム会場）

出席者：（議事録記載者に下線）

林好一（代表、東北大）

松下智裕（副代表、JASRI）

加藤有香子（JASRI）

松井文彦（奈良先端大）

大門寛（奈良先端大）

室隆桂之（JASRI）

内富直隆（長岡技科大）

鈴木基寛（JASRI）

細川伸也（広島工大）

寺井智之（阪大）

山本篤史郎（東北大）

西野吉則（理研）

八方直久（広島市大）

計13名

議題：A) 研究会の目的の確認と意見交換、B) メンバー自己紹介、C) 今後の課題について審議

議事内容：

A) 研究会の目的の確認と意見交換

ミーティング資料（研究会設置申請書）にもとづき、林代表が電子線ホログラフィーグループと蛍光X線ホログラフィーグループの連合体による本研究会

設立の目的、経緯を説明し、メンバーと意見交換を行うことにより、以下の点について改めて意思確認を行った。

- ・ 広く学术界にアピールすることにより、利用者、メンバーの増員
- ・ マシンタイムのさらなる確保
- ・ ソフト、ハードの共有化の検討(電子線グループより、プレゼンのテクニック(原子像の3次元表示など)の提供可能の申し出があった。)

B) メンバーの自己紹介

C) 今後の課題について審議

以下の項目について審議した。

- (1) マシンタイムの確保と優先枠の利用
- (2) マンパワーの確保
- (3) 装置の更新
- (4) JASRI に対しての新規な提案
- (5) 利用者拡大に関して
- (6) 予算獲得
- (7) ホームページ作成

上記の項目に対して、以下の意見が出された。

- ・ 蛍光X線グループの課題不採択が多い。申請書の書き方の工夫が必要である。
- ・ 基礎的な実験のマシンタイム確保が課題である。実施できる(他の)ビームラインは？
- ・ 人手が足りない。(ダイヤモンドアナライザーに JASRI のスタッフがつかない。蛍光X線グループには学生がいない。) 良い話 (PD など) があれば、確保するように努める。
- ・ 装置が老朽化してきている。新規装置作製の際に、電子線と蛍光X線の共通装置が作れないか？

今後、検討する。(蛍光X線でも軽元素を測定する際は真空が必要である。電子線でも、「表面処理が不要となる」や「バルクが観測できる」などのメリット

をねらって、今後、励起光に硬X線を使用する予定がある。今後、技術交流を検討する。)

- ・装置について JASRI に配慮をお願いする。(JASRI 保有の装置について、改造・変更などの際に情報提供を求める。また、新規装置や持ち込み装置の保管場所の提供を求める。)

- ・ユーザー拡大のために、様々な場所や機会でアピール(応用物理学会や日本物理学会でのシンポジウムや SPring-8 のワークショップを開催)を行う。

- ・メンバーの共通の認識作りのために、放射光学会で研究会を開催する。

- ・普通枠や優先枠のマシントイム使用料の支払いのためにも、将来的に(大型)予算獲得を目指す。

- ・情報発信とデータ共有を目的にホームページを作成する。

- ・サーバー確保は、SPring-8 に依頼する。(外部の人が更新できるか?確認を行う。)

- ・責任者を設置すべき。(責任者未定)

- ・ミーティングなどの議事録を掲載する。

- ・更新(のやり方や制度、頻度)が課題である。

- ・一般用に情報を作成する。(そのための図が必要。まとめて一気にを行う。)

- ・成功事例と失敗事例(出来ることと出来ないこと)を掲載する。

- ・まず、叩き台のページを作成(担当:林、松下、山本)するので、他のメンバーは、それに対して意見を出す。

D) 次回ミーティングの日時などの決定

- ・2009年1月9日(金) 14:00~17:00(放射光学会初日)

その他:

特になし。